

第118回人材開発研究会 「新たなOJT研修」プログラム概要

新たなOJT研修は、各参加者のこれまでの経験や悩みを通して、これまでややもすると軽視されてきたOJTについて、討議や演習等を行いながら、また各セッションでの議論を踏まえながら、実践的なOJTを修得することを目的としています。

(セッション1) 今なぜOJTなのか？

セッション1では、研修の導入として、公務組織にとって、なぜ今OJTが必要なのかを班別討議で考え、研修員同士のこれまでの経験や体験をもとに人材育成の重要性を再認識してもらいます。

(セッション2) OJT機能不全の実態

ICT化の進展、人事管理の多様化、職員の価値観や意識の変化等、OJTを取り巻く環境変化や、OJTが上手くできていない（機能不全に陥る）さまざまな要因を考察するとともに、OJT実施上の悩みや問題点を研修員同士で議論することで、現状のOJTの問題点を明らかにしていきます。

(セッション3) 実践的OJT(理論と演習)

OJTに関する基本理論はもとより、最新の理論や方法論を紹介すると共に、人がどのようなときに成長するかを研修員同士の経験を踏まえた議論を通して理解してもらいます。そのうえで、OJTの実施に必要なスキル（コーチングスキル（傾聴、質問、フィードバック等））について、具体的な演習を通して身につけてもらいます。

(セッション4) チームで働く意義・教えあう

これからのOJTについて考えさせるとともに、“チームで教えあう”をコンセプトに、これからのOJTの考え方として「チーム育成型OJT」について紹介し、今後の公務組織において上司として何ができるのかについて議論してもらいます。

(セッション5) 対応に困ったケース

これまでの経験（実例）を踏まえて、OJTの様々なケースへの対応を考察し、ロールプレイなどを行いつつ研修で修得したスキル活かした実践的な学びを行います。

(セッション6) 総括・まとめ

クロージングとして、研修全体を再度振り返り、職場への応用を再確認します。